

## OUJ神奈川学習センター はるだより

通巻第62号

2015年5月30日発行

発行:放送大学神奈川学習センター

〒232-0061 横浜市南区大岡2-31-1

url: <http://www.sc.ouj.ac.jp/center/kanagawa/>

tel:045-710-1910 fax:045-710-1914



真鶴港 (2面に関連記事)

目次	「ホヤの再生とパターン形成」 客員教授 種田 保穂	2~ 3
	「国際人権法とは？」 客員教授 初川 満	4~ 5
	客員教授退任にあたって 影井 清一郎／藤原 一繪	5
	平成26年度学位記授与式	6~ 8
	学習センターニュース(入学者の集い／春のフェスタ)	8
	研修旅行学習ノートから「STEEL HISTORY」(上)	9
	「NAHAマラソンの思い出」 非常勤講師 高橋 正彦	10
	Kーサポートからのお知らせ	11
	学生サークルからのお知らせ／同窓会だより	12~13
	学習センターからのお知らせ	14

神奈川(みなとみらい)



## ホヤの再生とパターン形成

放送大学神奈川学習センター

客員教授 種田 保穂

昨年4月に本学習センターの客員教授に着任して1年が経ちました。その間、面接授業、公開講演会、同窓会講演などを行い、また「いきものがかり」という生物好きのサークルにもお誘いいただき真鶴の海岸動物の観察会を企画したりしました。これからはゼミも開講したいと思っています。

私は長く群体ホヤを材料に、「群体特異性」、「無性生殖」、「再生」などを研究してきましたが、その中で「再生とパターン形成」について述べたいと思います。

### ミサキマメイタボヤの再生

動物の再生には2つの様式があると言われていています。その一つはトカゲの尻尾やカニの付属肢の再生など失われた部分を復元する再生で、付加再生と呼ばれています。この再生では切断部分に再生芽が形成され、再生芽において細胞分裂が行われ、細胞数を増やし、再分化して失われた部分が復元されます。一方、ヒドラやプラナリアなどでは切断された部分からそれぞれ小さな相似形の個体を作られます。このような再生を形態調節と呼びます。形態調節では再生芽は作られず、細胞分裂も必要ないと言われていています。ミサキマメイタボヤでは切断された断片は相似形の小さな個体を作ることから形態調節と考えられますが、詳しく見ると簡単にそうは言えないのです。

さいこうれつ

#### (1) 鰓孔列数の復元

えら

ホヤの鰓には鰓孔があつてそれが列をなしています。この鰓孔列数は種の特徴となっていて、ほぼ数が決まっています。ミサキマメイタボヤでは20列近くありますが、個体をほぼ半分に切断しても再生した個体ではほぼ同じくらいの鰓孔列数になっているのです。そこで鰓孔列数の復元プロセスを観察したところ断片の大きさによってちがっていることがわかりました。つまり半分以下の小さい断片にした場合、鰓孔列は一度消失し、再び元とほぼ同数の鰓孔原基ができ、それが大きくなって鰓孔列数が復元される



のです。一方、鰓孔列数がほとんど残っている場合は、鰓孔列は消失することなくそのまま残り、ところどころで鰓孔が分かれて2個となり列数を復元するので。また、中央付近で切断した場合、一度わかれていたものが再びくっつくことがあります。そうなるべくつった場所で新しく鰓孔原基が作られ列数が増えるのですが、鰓孔は消失することなく鰓孔原基が作られます。このように状況に応じてちがったやり方で鰓孔列数は復元されるのです。

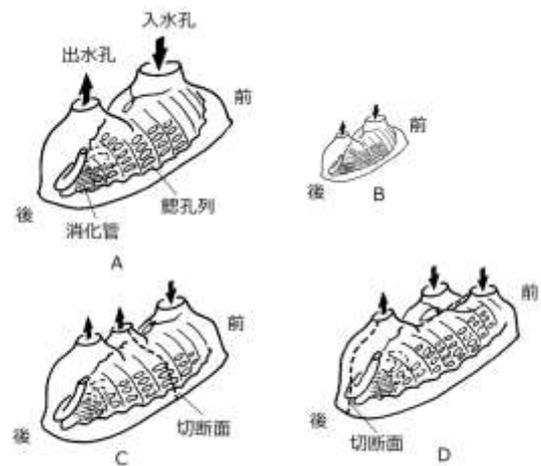
#### (2) 消化管の復元

消化管を含まない個体断片においてはまず消化管原基が作られ、そこから消化管が作られますが、その消化管原基ではさかんに細胞分裂が見られます。ところが腸を一部残しておく、残っている消化管を再利用し、足りない部分が作られてきます。このように全く消化管が無い時と一部の消化管が残っている時ではちがった再生のしかたをします。

#### (3) 断片の大きさと再生される器官の大きさ

個体の断片はどのようにして自身の大きさを知り、それにちがった大きさの器官をつくるのでしょうか。そのことを調べるために個体を前と後ろの二つの断片に分

けた時と、個体を左右の二つの断片にわけた時とで作られる消化管の大きさがどうなるか比較しました。もし断片の中の細胞数がサイズの情報を与えるなら両方ともサイズは約半分ですから1/2の大きさの消化管が作られるはずですが、一方、前後軸の長さが断片のサイズの情報になっているなら前や後ろでは1/2の消化管が、右や左では元と同じサイズの消化管ができるはずですが、結果は後者でした。断片のサイズの情報は前後軸の長さが決めていると考えられたのです。しかし、後ろ1/3と前1/3を切断した真ん中の1/3の断片を作ったところ、1/3ではなくて2/3のサイズの消化管を作ったのです。つまり前後軸の長さの絶対値ではなく切断された後端の位置が消化管の大きさを決めるのだと考えられたのです。



ミサキマメイタボヤの再生

- A: 切断前の個虫 B: 再生した相似形の小個虫
- C: 过剩出水孔を持つ個虫 D: 过剩入水孔を持つ個虫

**(4) 过剩の出水孔や入水孔の形成**

体の中央部で切断し、前後に分けておくと24時間以内に両断片が癒合し、一つにもどることがあります。その時、癒合したところに过剩の出水孔が作られることがあります。また、縦に切断し、左右に分けておいた場合も24時間以内両断片が癒合し、一つに戻ることがあります。このような場合に左右に2個の入水孔ができることがあります。



**【退任教職員紹介】**

放送大学神奈川学習センターを平成27年3月31日付で退任されました。  
たいへんお世話になり、ありがとうございました。

客員教授	影井 清一郎	画像解析
客員教授	藤原 一繪	植生生態学
客員教授	村田 忠禧	中国現代史
教務係長	奥田 耕造	
総務係	三和田智美	

**【新任教職員紹介】**

放送大学神奈川学習センターに平成27年4月1日付で採用になりました。  
よろしくお願ひいたします。

客員教授	宇高 義郎	熱工学
客員教授	内藤 晶	構造生物学
客員教授	中嶋 俊夫	音楽科教育
客員教授	林部 英雄	発達言語心理学
客員教授	福田 幸男	実験心理学
客員教授	溝口 周二	管理会計学
教務係長	佐藤 光明	
総務係	百石 由紀	

## 国際人権法とは？

放送大学神奈川学習センター  
客員教授 初川 満

客員教授の初川と申します。放送大学では、国際法と国際人権法を講義しています。恐らくは、国際人権法という分野については、初耳の方が多いのではないかと思います。そこで、今回は、国際人権法について、簡単な紹介をすることとしましょう。これは一言でいうと、人権に関する法的保障について、国内法及び国際法の両面から、学際的に論じるものです。日本では比較的新しい分野で、大学で専門講座が置かれ出したのは1990年代に入ってからです。とはいえ、現在では大変ポピュラーになり、今や殆どの大学で講義が行われるようになりました。

では、「国際人権法とはいかなるものなのか」を、歴史的視点から述べることにしましょう。

まず、人権を、「人間の法的権利」という意味に解するとして、こうした権利を享受する「人間」とは、いかなるものを言うのでしょうか。古代から中世にかけて、ここにいう「人権」を主張し得たのは、支配層に属する白人男性のみでしたが、近代になりやっと市民階級に属する女性も「人間」に加えられるようになりました。とはいえ、世界中の成人女性が「人間」の仲間入りをするのは、20世紀後半になってからです。旧植民地の成人男性が「人間」として認められてきたのは、その少し前にすぎません。子供に至っては、21世紀目前になってからと言えます。こうしてやっと、あらゆる「人」が、人権の享有主体である「人間」となってきたのです。

次に、人権の国際的保障という点について考えてみることにしましょう。第2次世界大戦までは、人権はもっぱら国内問題とされていました。例外的なものとして、新教徒と旧教徒が争った30年戦争の帰結として1648年に締結された、ウエストフェリア条約とか、第一次大戦後国内の少数民族の保護を国際的に約束した条約などがありはします。しかし、前者は、宗教改革により旧教徒と新教徒間の対立が激化したヨーロッパにおける国家間の調整が目的であり、後者は、第一次大戦後誕生した新しい国々が抱える少数民族(特にドイツ系)がヨーロッパの不安定要因となることを防ぐことが目的であり、ともに「人権」その



ものの保護が主な目的ではなく、また幾つかの国家のみをその適用範囲とするにすぎないものでした。

ところが、1930年代に台頭した全体主義(特にナチズム)を信奉する国家は、国際社会の秩序を乱す要因となりました。これらの国は、国内においても人権を無視していましたが、例えばユダヤ人弾圧も、国内法の手続に従い合法的に行われたと言わざるを得ないところがあり、ここに人権問題を国内管轄事項とすることの限界が露呈しました。こうした国内法に基づいた合法的行為が結果として人権の抑圧を生んだという国内人権法による保護の無力性と、国内問題が国際社会の秩序までも乱すこととなるという歴史的事実から、戦後の国際社会は、人権保護を国内問題として各国の自由に任せるわけにはいかないと決心します。言い換えれば、人権の憲法的国内保障だけでは保護が不十分であったという反省から、人権の保護の問題を国内問題に留めることなく、積極的に国際的監視の下に置こうという動きが、戦後国連を舞台に活発となってきたのです。こうして、人権問題は「国際的関心事」となり、人権保障を国際的な法の枠組みで論ずる国際人権法が発達することとなったわけです。

こうして、国内における利害の調整(例えば、表現の自由とその制限の程度)は、あくまでも国内法により行われ得るとはいえ、いまや国内法といえども人権

保護に関する法である以上は「国際的関心事」となってきたため、国際的基準つまり国際人権法に適合する必要があります。そして国家は、国内人権法による人権の保護と同様に国際人権法による人権の保護も、実現すべき義務を負う立場にあります。つまり、国家の人権保護実現義務は、国際責任であり、国際社会の監視対象となり得るのです。こうした意味からも、今や国際人権法を無視した国内人権法は、その正統

性を失うと言ってよいでしょう。言い換えれば、民主的社會において「人権」保護のレベルはその国の民主度の物差しであり、国際社会の一員たるには、国際社会の評価に耐え得る国内の人権保障が不可欠なのです。

そして、こうした各国の人権保障を国際的に監視する法的システムを、国際人権法と呼ぶことができるのです。

## 退任客員教授からのことば

昨年度末をもちまして、神奈川学習センター客員教授の影井清一郎先生、藤原一繪先生、村田忠禧先生が退任されました。客員教授制度発足の頃に就任され毎月のようにゼミを開講するなど、神奈川学習センターに大きく貢献されました。お礼申し上げます。また、影井先生、藤原先生から退任の言葉をいただきましたので、掲載いたします。(編集部)

### 客員教授退任にあたって

影井 清一郎 前客員教授

「情報公開が教育面でも競争力を高めるのでは」という期待から面接授業をお引き受けして以来、皆さんの勉学に対する熱意に支えられ、客員教授3年に非常勤講師も含めて20年余の長きにわたり楽しく務めさせて頂きました。稚拙な話を熱心にお聞き頂いた受講生の方々、身勝手な願いをお聞き届け頂いたセンターの方々をはじめ皆様方に深く感謝申し上げます。この間、担当の情報の分野も、「コンピュータの原理」から「情報の処理」へと大きく変化し、私の専門と離れてきました。幸い、今まで行ってきましたセミナーを「科学の散歩道 研究会」として継続することを認めて頂きましたので、これからも皆さんと共に新しい分野を学ぼうと思っております。皆様方が益々楽しい学園生活をお続けになることを願って。



### 客員教授退任にあたって

藤原 一繪 前客員教授

今年はちょうどサクラが満開時、放送大学神奈川学習センター客員教授を退任になりました。2010年4月は、サクラが満開時に客員教授に着任し、入学式に出席したことを覚えております。瞬く間に5年がたってしまいました。その間、藤原ゼミを開講し、ゼミのメンバーも一度変わりましたが、その後皆さん継続し、私の退任後は、植生研究会として、ゼミメンバーが独立して立ち上げた研究会を運営はじめています。ゼミを進めている中で、常々感じておりましたが、学習センターの学生さん達は、目的意識を持ち勉強することを楽しんでいる、知識をどんどん吸収しようとしている、生き生きとした生活を持っていることを体感しました。私よりも年上や、年が近い方々、そして若い方々の幅広い学生さんと一緒にまわった野外活動、教室での皆さんの発表、パワーポイントを使ったことがなかった人が、みんなに教わりながら作り上げての発表、卒業論文指導のための現場調査から論文添削まで、凝縮した時間を過ごさせて頂きました。藤原ゼミの皆さんに感謝をお伝えするとともに、お世話になりました歴代所長(渡邊先生、濱田先生、池田先生)と事務室の方々にお礼申し上げます。みなさま、学ぶことで人生を楽しんで下さい。



2015年2月藤原ゼミ送別会

## 平成26年度学位記授与式

平成27年3月21日、渋谷のNHKホールにて、平成26年度学位記授与式が行われました。また、午後には、ホテルニューオータニで、卒業・修了祝賀パーティが開催されました。神奈川学習センターの卒業生317名、修了生26名（うち2学期卒業／修了生199名／26名）でした。

それに先立つ3月14日には、神奈川学習センターにて、はじめての試みとなる「卒業生の集い」が開催され卒業生54名、修了生6名が集いました。神奈川学習センターでは、1学期卒業・修了生については、9月に学位記授与式と謝恩会が開かれていましたが、2学期卒業・修了生は、神奈川学習センター内で祝賀会等の行事は行われて来ませんでした。今回、卒業生の集いが開催され、神奈川学習センターの平成26年度2学期の卒業・修了生が集まるとともに、学生表彰と、NHKホールでの学位記授与式に備え放送大学学歌の練習が行われました。終了後、茶話会が開催され、今まではなかった神奈川学習センターの卒業・修了生の交流の場になりました。

沖松 悠介さん(学生表彰者)と、村山敬子さんからご寄稿頂きました、卒業への思いを掲載します。  
(編集部)

## 学びの歩み

### 卒業生 沖松 悠介

様々に学びを進め、深める日々の中で、学歌の存在を意識する瞬間というものが、放送大学に入学して以来、それまでの私には一度もありませんでした。無事に卒業出来ることが確定し、ホッとしていたそんな折、センター所長から直々に、卒業生の集いへのお誘いを頂き、更には学位記授与式へも出席したことで、学歌の持つ、豊かな味わいを深く感じる機会を得ることになりました。

「生きることは学ぶことであり、学ぶことは生きることである」との思いで歩んで来た私にとって、その歌詞一つ一つが、放送大学で過ごした時間は勿論のこと、人生そのものにも重なるように感じられるものでした。

在校生や新たに入学された方々にも、この素晴ら

しい学歌に送り出されて卒業を迎えられる際、それぞれにじっくりと味わうことの出来るような時間を、放送大学での学びと共に過ごして頂けたらと願っています。

学歌の中には“見えない友”という歌詞が出てきます。私は、平成23年の春に放送大学に入学しましたが、あの時の私と同じように学びを始めようとしていた方や学びの途上にあつた方、放送大学での学びを活かし、次なる一步を踏み出そうとしていた方…震災によって突然失われることになった、沢山のそういった方々の存在を“見えない友”として思いながら生きてゆくことは、あの震災を経験した私達だからこそ出来ることであり、学歌に込められた思いを体現することにも繋がると、卒業した今、改めてそのように感じています。

震災のように、マスコミによって大々的に取り上げられる事柄だけに止まらず、人生とは、誰しも、考えもつかない様々なことが起こり得るものであつて、明日が来るのが当たり前という漫然とした気持ちで毎日を過ごしてしまうのは、非常に勿体無いことであり、その日を、その瞬間を、そして、その人生を生ききるこ

27年3月 放送大学神奈川学習センター  
卒業生の集い



学歌の練習風景(卒業生の集い)



学位記授与式(2015年3月21日NHKホール)

とが大切になると私は考えて、今を生きています。学ぶことが出来るということやその環境・機会を得る、与えられることの意味と向き合うのも、学びの一つなのではないでしょうか。

放送大学のような学びの場において学業を修めてゆくことは、自らを律する力が強く求められますが、それは「継続は力なり」と言い換えることが出来るもので、私自身も、幼少の頃に座右の銘にしていた言葉でもあります。しかし“言うは易く行うは難し”とは、正にこのことであり、この言葉を標榜して継続出来なかった場合の心理的な影響について考察したりなどもしましたが、色々な経験を経て、もう一つの自分なりの考え方に、新たに至ることになりました。

放送大学にも、様々な理由・事情から、それまで学びを中断していた方、諦めていた方などが少なからずいらっしゃると思いますが、私自身、生きること、学ぶこと、前を向くこと、希望を持つこと…そういったことを一切諦め、涙は枯れ、心が朽ちて、感情を失くした日々を経て、向き合うこと、歩み出すこと、学

ぶこと、そして、生きることに再び取り組み始める際に必要としたエネルギーは膨大なものでしたが、だからこそ、自らにとっても大きな「力」となり得ました。そうして「再開は力なり」という考えを持って、今日の日まで一歩ずつ歩みを進めて来ました。

私が放送大学で受講した幾つもの授業の中で、特に印象に残っているのが、大場登先生の担当された面接授業です。その授業において、コンステレーションという言葉、概念を先生に紹介していただきました。それまで自分の中で思い、考え、感じ、時に悩み、自問していたことに対して、大きなヒントを得る、与えていただくきっかけになった授業となりました。放送大学に入学したことやその授業を選じたこと、その言葉に気付きを得たこと自体もコンステレーションの一つであり、自らの経験してきたこと、現在経験していること、これから経験してゆくことにも…即ち、人生に、一つ一つ意味を見出してゆくという教えとして、今でもしっかりと心に活きているのですし、それだけではなく、放送大学で学んだことも含め、自分の命や経験、思いなどを誰かの為にも役立てることが出来るようにとの思いを持って生きることは、自らと出逢ってくれる誰かにとってのコンステレーションに、自分自身がなれるようにということと繋がっているのだと、私はそんな風に信じています。

放送大学だから出来る学び、放送大学でしか出来ない学びに、一人一人、皆さんが出逢えることを願いながら、私も、次なる場での新たな学びに励むと共に“人生”という学び舎で、生涯に渡って、学び続けてゆきたいと思います。



## 卒業の言葉

村山敬子

最初は、スキルアップのための入学希望でしたが、「生活と福祉コース」は、日常生活に関する学習内容が充実しており、「学ぶ」ことの楽しさや「知る」ことの喜びを実感することが出来ました。

在学中は、仕事や家庭の事情で思うように学習を進めることが難しく、くじけそうな時もありましたが、「学び」の中から自分を支えてくれる「志」を見つけることが出来ました。

どんな状況でも、自分を信じて自分を褒めること

の大切さを学びました。卒業後も、地域社会に貢献できるよう、自分自身を磨く努力を続けて行きたいと思います。



卒業・修了祝賀会(ホテルニューオータニ)

## 入学者の集い

4月5日神奈川学習センターにて、平成27年度1学期「入学者の集い」が開催されました。

式は、DVD映像による岡部学長の挨拶、池田所長の式辞、佐藤神奈川同窓会長代行の祝辞、客員教授の紹介(一人一人の先生方から短いスピーチがあった) 放送大学神奈川合唱団による学歌斉唱。式典の後、学習センターの利用方法の説明(オリエンテーション)、学生による学生へのサポート活



動(Kーサポート)の紹介、学生サークル(学習センター公認の9団体)の紹介がありました。

3時間近くの集いでしたが、多くの方が終わりまで話に聞き入っていました。

神奈川学習センターの入学者は、学部1415名、大学院230名で、そのうち学部209名大学院21名が集いに参加しました。



## 春のフェスタ～濱田教授講演会

3月1日、神奈川サークル協議会主催の学園祭行事「春のフェスタ」が開催され、平成26年度末で退任された、元神奈川学習センター所長 濱田嘉昭教授の講演会「出あい、触れあい、学びあい」が開催されました。

金子みすゞの詩を挟みながら、生い立ち、科学的な視点、放送大学のことなど話され「出会って、触れ合って、情報を交換して行く仕組みをつくる、学生の立場から講義内容を作り上げて行く時代が来ればよい。」と纏められました。

講演会の後は、会場をグランブッフェ京急上大岡



店に移して、懇親会「濱田先生を囲む会」を行いました。池田所長をはじめ、渡邊元所長、国際言語文化アカデミアの三國所長、原田教授、そして、多くの学生、同窓生が参加して和気藹々の会となりました。

また、春のフェスタは、3月15日にサークル成果発表会として、学生の宮田さんによる「漢数詞はどこから来たか」、フォスタープラン報告、太極拳、中国語で合唱しよう、が行われました。



## 研修旅行学習ノートから「STEEL HISTORY－西山弥太郎の英断－」(上)

平成26年度学生研修旅行の学習ノートから、笹木正明さんによる「STEEL HISTORY－西山弥太郎の英断－」を、2回にわたり掲載いたします。

廃墟から戦後の復興を成し遂げ、経済大国到達への礎を担った日本の鉄鋼業界の発展のきっかけについてです。西山弥太郎は終戦後川崎製鉄の分離独立を果たし、平炉メーカーから高炉メーカーへ転身する夢の実現に向け、最新技術を取り入れた銑鋼一貫の千葉製鉄所を完成した。高炉建設には社内技術者、海外から引き揚げた高炉技術者、労働組合等の協力があつた。資本金5億円で160億円の投資を可能にしたのは、川鉄と一体になり全面的に協力したメインバンク第一銀行の協力が不可欠。川崎グループ経営者の決断が始まりだった。

### 2. 川崎造船所設立から川崎製鉄分離独立

#### (1) 川崎造船所株式会社

1896年(明29)個人経営から資本金200万円で株式会社に変更、顧問就任。同郷の先輩であり自分の事業の恩人でもあつた松方正義の三男・幸次郎(エール大、ソルボンヌ大卒)を社長に招聘。松方は1896(明治29)年から1928(昭和3)年迄の32年間にわたって社長を務め、この間鉄道車両・自動車・航空機・製鋼・海運業の各分野に進出。製鋼の分野は1906年運河分工場を設置する時に製鋼部を設置、鑄造品の製造を開始したことから始まる。1917(大正6)年神戸葺合の脇浜(現在の神戸市中央区)に葺合工場を完成させ、中鋼板・厚鋼板の生産を開始。後年川崎製鉄初代社長に昇進した西山弥太郎(1893 - 1966)(明治26生まれ)は1919(大正8)年7月東大鉄冶金科を卒業、同8月、株式会社川崎造船所に入社。葺合工場製板工場製鋼課職員として配属された西山技師は現場に飛び込み、職工と共に働いた。西山は研究、現場改善に熱心に取り組み、多くの職工等から信頼を得ていた。

#### (2) 川崎重工株式会社に改称、終戦

事業の拡大とともに、車両、航空機、製鉄部門が相次いで独立し、それぞれの分野で確固たる地歩を築くことが出来た。1939(昭和14)年12月に社名を川崎重工業株式会社と変更した。西山弥太郎は1942(昭和17)年6月に取締役役に就任、会社は軍需工場に指定された。終戦時には川崎重工業の中の6つの製鉄工場は統合され西山が製鉄所長になった。生産の停止、従業員の寮等と社宅の焼失、食料事情の逼迫で会社経営が出来なかった。製鉄所は従業員13000人の処遇に苦慮し3000人を残して

整理した。

### 3. 労働争議の解決

1948(昭和23)年には、団結権、団体交渉権、争議権などを保障した労働組合法施行。

1948(昭和23)年3月下旬から同年7月まで川崎重工製鉄所葺合工場製板分会(以下分会)と川崎重工製鉄所葺合工場(以下工場)との労働争議は、終戦後わが国において行なわれた数多き労働争議のなかでも、あらゆる種類の争議方法が用いられた争議であり、また労働運動史上、多くの先例を作つたものだった。現在の川鉄はこの争議を契機として発達したともいえる。

### 4. 川崎製鉄分離独立の背景

公職追放令が公布施行され、川崎重工は5人の取締役の合議制で経営された。一番の問題点は、川重の再建案として製鉄部門を分離するか、非分離で経営するかであった。川重5取締役の筆頭の西山は「溶鉱炉を持たなければ大きな発展は望めない。その溶鉱炉を持つためには非常に金がかかるので、造船所と高炉が一緒であつては、経営そのものが難しくなる」と分離を主張1950(昭和25)年8月、川崎重工は、再建整備計画書を政府に提出した。造船部門(資本金5.6億円)は手塚を社長として存続、製鉄部門は川崎製鉄として分離独立(資本金5億円)、社長に西山が就任した。

### 5. 高炉メーカーとして新たな千葉製鉄所建設

#### (1) 製鉄所用地の選定と確保

川崎製鉄発足の時期と前後して、新製鉄所建設の具体案が練られた。千葉市の海よりの日立航空機の工場跡地(約60万坪)が有力だった。製鉄所建設用地の決定に際しては、地形、地盤、用水、電力、港湾、鉄道、労働力、市場などの検討が必要である。千葉で最も問題になったのは港湾と用水であつた。

#### (2) 千葉製鉄所建設計画の申請

1950(昭和25)年11月、千葉製鉄所の建設計画(粗鋼年産100万トン)を通産省に提出した。資本金5億円の川鉄では、建設資金が大幅に不足であつた。高炉新設の公表は大きな反響を起こした。一万田日銀総裁が「千葉製鉄所にべんぺん草をはやしてやる」言つたという話があつた。一万田によれば、事実は文句があまり名文句だから、責任ある人がいつたのではなく、記者仲間が上手い台詞を作つて、当時の川鉄のおかれた環境をおもしろおかしく説明したのでらうとの事だった。(つづく)

## NAHAマラソンの思い出

放送大学神奈川学習センター非常勤講師  
(横浜国立大学教授)

高橋 正彦

私は、日本銀行（日銀）から日本開発銀行（開銀、現・日本政策投資銀行）に出向していた約30年前、同行のジョギングクラブに入部して走り出した。中学時代に陸上部員であった私も、社会人生活約10年間の運動不足と不摂生で太り気味となっていたが、やがて学生時代の体型に戻ったうえ、かつてのランナーの血が蘇り、皇居1周（約5km）を17分台で走れるようになった。

クラブのメンバーの方々と各地のレースにも出場したが、市民ランナーとしては、フルマラソン（42.195km）を完走できるようになれば一人前といえる。自分にとって初めてのフルマラソンとなった河口湖マラソンを3時間15分で完走した後、市民ランナーの夢である「サブスリー」、すなわち2時間台の記録を目標としたが、3時間の壁は厚かった。

約2年の開銀出向から日銀へ戻り、那覇支店営業課長に着任した。あのバブル経済の時代である。沖縄は年中気温が高いうえに、当時は適当なジョギングコースも少なく、ランナーにとっては、あまり良い環境とはいえない。自分も仕事に追われる毎日で、なかなか思うように練習もできなかった。

沖縄には、NAHA（那覇）マラソンという、南部戦跡を巡るコースで、人気の高いフルマラソン大会がある。私は「日銀のマラソン課長」として知られ始めたが、ある時、日銀にも出入りしている地元紙、沖縄タイムスのS記者が、「NAHAマラソンでサブスリーを達成したら、新聞記事でとりあげる」と約束してくれた。

しかし、自身初のNAHAマラソンでは、3時間10分も切れず、実力不足を思い知らされた。私はあちらこちらで「在任中に3時間を切る」と宣言し、自ら退路を断った。暑い夏場でも、週末の夕方などに、川べりの公園のコースを全身汗まみれで走り込み、月間走行距離は200km以上に及んだ。

自身2度目のNAHAマラソン当日の1988年12月4日は好天で、冬とはいえ、マラソンにはま

だ暑いくらいだった。この大会はお祭りのようで、沿道の応援も多い。私は想定どおり、5km20分台のイーブンペースで走り続けた。中間点の平和祈念公園、30kmの糸満市を通過し、「35kmの壁」を過ぎても、ペースはあまり落ちない。40km地点でタイムを確認すると、2時間44分。残り2.195kmを10分として、この時点で2時間台の記録を確信した。写真はゴール直前の奥武山公園陸上競技場で、私（ゼッケン423番）は苦しそうではあるが、高揚感が表情に表れている。結局、記録は2時間52分と、自己5回目のフルマラソンで、遂に夢のサブスリーを達成した。参加約1万人中34位で、自分の年齢と同じ順位だった。

S記者は2年越しの約束をちゃんと覚えていて、翌日、カメラマンを連れて、日銀支店にインタビューにきてくださった。その翌日の沖縄タイムスに写真入りで、「異色のランナー」の紹介記事が載った。ただ、紙面がスポーツ欄ではなく経済欄だったため、マラソンの話から始まりながら、最後は沖縄県経済の話題になっているのがおかしかった。私の沖縄時代の良い思い出だ。

その後、沖縄を離任して東京に戻ってから、フルマラソンの自己記録は2時間46分まで伸びた。2000年に日銀から横浜国大に転職したが、今でも現役ランナーを続けている。フルマラソンの出場回数は60回くらいになっているが、すべて完走している。今ではさすがにサブスリーは無理だが、サブフォー（3時間台）は維持している。放送大学神奈川学習センターでの面接授業「金融システムと金融政策」等でのパワフルな講義ぶりは、ランナーならではの自任している。これからもまだまだ、元気で走り続けていきたいものだ。



## Kーサポートからのお知らせ

### ○2014年度 Kーサポート発表会

第8回目となるKーサポート発表会が2015年3月8日に学習センターで開催されました。

池田龍彦所長をはじめ、大学本部より元所長の濱田嘉昭教授、また原田順子教授が出席され、サポーターの学生・卒業生もこれまでで最多の25名が参加しました。

前半は2014年度の活動実績を、学習相談・機関紙編集・地域連携・バス研修・パソコンサポートの各チームが発表しました。休憩とチームごとの話し合いの後、2015年度の活動計画が発表され、全5チーム揃って新年度の活動準備を始動しました。



### ○Kーサポート ウェブサイトが 学習センターHPにリンクしました

Kーサポートは、しばらくインターネット上からウェブサイトを取り下げておりましたが、3月下旬に内容を更新し、新たに『放送大学神奈川SC Kーサポート』としてスタートしました

(<http://k-support.yumesora.net/>)。

学習センターのHP(<http://www.sc.ouj.ac.jp/center/kanagawa/>)からは、トップページ>この学習センターについて>サークル・同窓会・Kーサポート等のご案内>その他 Kーサポートホームページについて、とたどるとリンクに接続いただけます。

ウェブページでは、各チーム取り組む活動の募集等についても随時、更新していく予定です。折にふれご覧になってみてください。

Kーサポート事務局

(E-mail: [ksupport@ouj.ac.jp](mailto:ksupport@ouj.ac.jp))

### ○パソコンサポートチームの活動が 「大学の窓」で紹介されました

4月11日(土)午後実施された「個別相談」が取材され、次の番組で紹介されました。

番組タイトル:「初めてのパソコン～らくらく学び術～」 放送日:2015年5月6日(水)から(15分番組)

テレビでの放送は、終了しましたが、「大学の窓」の番組は、放送大学のウェブページで(過去に放映されたものを含め)見ることができます。

### ○学習相談チーム

Kーサポートの学習相談、2015年度第1学期は、**6月21日までの土曜日と日曜日、午後1時から午後3時50分の間、2階談話室の相談コーナー**で行います。予約は不要です。

放送大学での学習に関して困っている点に限らせていただきますが、まずは気軽に何でも相談にきてください。

### ○パソコンサポートチーム

・6月21日(日曜)13:00～16:30

・7月18日(土曜)13:00～16:30

「個別サポート」

内容:サポーターによる操作支援

※申込不要。直接「実習室」にお越しください。

・8月22日(土曜)13:00～16:30

「ホームページの利用一科目登録の提出」

内容:初めてインターネットで科目登録する方向け講義とサポーターの操作支援

※神奈川学習センターへ申込み必要です(定員制、空若干名)。

### OUJ神奈川学習センターだより編集部

赤松、家田、伊藤、入江、遠田、笠井、吉川、木下、  
宮崎、福馬、三国、和田

(50音順、以上、Kーサポート機関紙編集チーム)

垣谷(Kーサポート事務局)

宮崎(学習センター事務局)

## 学生サークルからのお知らせ

### ○うえるかむKanagawa

楽しく英会話・英語を学びませんか。カナダの先生のレッスンもありますよ。

☆例会は毎月第2、第4水曜日(試験月等変更有り)

\*例会:Benny class (3クラス) 10:15~12:30

English Songs 13:15~13:30

Group Study 13:30~15:30

☆その他うえるかむ名画座、ゲスト講演会、懇親会等企画あり。

☆詳細は談話室のちらし又は下記HPをご覧ください。

<http://welcome-kanagawa.jimdo.com/>

☆サークル活動を一度覗いてみませんか。

お問い合わせ:片野真明 090-4714-8260

### ○韓国語同好会

★月例会 第2、第4土曜日(ただし、7月は第2と第3に変更)

① 10:00~11:30 初級クラス

② 11:30~12:00 ミーティング(全員)

③ 12:00~13:30 中級クラス

④ 14:00~15:00 自主学習(「韓国・朝鮮の歴史」ビデオ学習)

★講師 横浜国大大学院生 林恵園先生

★5月9日、「濱田先生を囲む集い」を実施。

★問い合わせ 神奈川サークル協議会のホームページからどうぞ。

(代表:斎藤)

### ○放大かながわレク・サークル

★パソコン部:個人のニーズに応じた学習。

学習日時:第2、第4木曜日 13時30分~15時30分。

場所:神奈川学習センター 実習室:申込制

★ウォーキング部:2ヶ月に1回、「東海道五十三次」実施中。名所旧跡文化 施設等も対象

★その他観劇、観光、映画、美術鑑賞等。

上記の各種活動はいずれも自由参加。

—会員募集中(随時申込・受付)—

問合せ:島田 義治 Tel 090-3907-8384

E-mail simada.yosiharu@coral.plala.or.jp

### ○神奈川合唱団

楽しく一緒に唱いましょう。

今年も、3月21日の学位記授与式にNHKホールにて学歌を唱いました。発声法に特に力を入れた指導を受けています。「ふるさと」「もみじ」などの歌を唱っています。気軽に見学においで下さい。

場所:大岡地区センター(神奈川学習センターの向い側)

第1、第3水曜日 午後6時~8時30分

お問い合わせ 家田 0466-34-7545

赤松 044-288-0655

### ○人間学研究会

〈毎月の例会発表〉毎月13:00より

★6月 6日(土)「建物疎開で消えた緑・橘・内田町」

★7月 5日(日)「イスラム国」の台頭—その背景と国際社会に及ぼす影響—(仮題)

★8月 8日(土)

会員の寄稿による会誌「せせらぎ」を毎年発行しています。

今年は26号を10月に発行予定。

その他:遠足、演劇鑑賞、美術館訪問などの行事もあります。

★6月2日(雨天6月9日) 浦賀へ遠足

お問い合わせ:小林鋭子 tel:045-373-0679

E-mail: t7791aaanta@ybb.ne.jp

### ○資格取得研究会

看護・福祉分野を中心にキャリアアップや進学・就職を目指す集まりです。現在、大学卒を目指す看護師の方、看護、医療、福祉関係のキャリアアップと認定心理士を取られる方などがいます。内容は例会(情報交換)と講演会の聴講、見学会など。これからの例会予定

・6月20日(土) (日帰りツアーを実施)

・7月19日(日)10:00~ 第4講義室

会費:¥500(1年間)

ホームページ…<http://shikaku.yumesora.net>

お問い合わせ…080-5546-7913(はこぎき)

## ○ダンスサークル（社交ダンス）

場所:神奈川学習センター第7講義室  
 曜日:第2・第火曜日 \*第1・第3火曜日 自主練習  
 時間:午後2時～4時 講師:菊島弘明・ユリ子  
 会費:1か月 1500円

活動内容:社交ダンス(モダン、ラテン)の学習(ダンスパーティーで踊れるレベルに)

ダンスはスポーツです。健康増進(特に、姿勢が良くなる)、ストレス解消に、楽しく踊りませんか!! 人生がより明るくなります。不定期ですが、1泊での実習旅行も実施しています。初めての方も楽しく踊っています(初心者、歓迎!)

また、全科履修生の方は30時間のレッスンで、体育実技1単位を取得できます。

連絡先:宮川京(代表)TEL:045-933-9753

## ○神奈川放友会

豊かで実りある学生生活を共有することを目的に、「学び」と「触れ合い」を柱とする幅広い活動を展開し、130余名の会員から強い支持を得ているサークルです。

☆学びの場の活動

oクラシックを楽しむ会 平成27年7月22日(水)、横浜みなとみらいホール

☆触れ合いの場の活動

o古典楽器の音色と歌舞伎鑑賞を楽しむ旅:平成27年6月14日(日)

民音音楽博物館を訪ねた後、国立劇場で歌舞伎「壺坂霊験記」を鑑賞

☆毎月の活動:俳句の会、書に遊ぶ会、女性の会 他

詳しくはWebで、<http://kanagawa-hoyukai.jp>

入会申込・問い合わせ先:山崎正之

[info@kanagawa-hoyukai.jp](mailto:info@kanagawa-hoyukai.jp)

## ○中国語学習会

ジャスミンの花が咲く季節となりました。この花を愛でる曲「茉莉花 Mo Li Hua」は、中国江蘇省の民謡です。江戸時代後期に、長崎経由で各地に伝わり、明治の初期にかけてたいへん流行しました。当時の教材「月琴楽譜」で、どう発音したのでしょうか。この歌、セリーヌ・ディオンも中国語で歌っています。歌は言葉をおぼえるだけでなく、語学習得への情熱をかきたててくれます。他にも各種の楽しい“仕掛け”が用意してあります。ともに中国語を学ん

で、世界を拓いてみませんか。

夏の学習案内: 6/7、6/21、8/9、8/16 10時～12時 中級、告先生、13時～15時 初級 唐先生  
 欢迎参观! 询问一下! tel.080-3552-2497,  
[snuf.708w@ezweb.ne.jp](mailto:snuf.708w@ezweb.ne.jp) 和田充弘

## 神奈川同窓会だより

☆5/23 同窓会通常総会

総会終了後15:00～16:30 天川晃 客員教授の公開講演会「占領下の神奈川県」

☆弘明寺サロンおよび会内同好会

①弘明寺サロン 5/20「海辺の観察:海藻」

場所:横須賀市(人数;先着16名位)

②春の企画行事および弘明寺サロンコラボ

6/12「横浜能楽堂」見学と「にぎわい座」

\*同窓会会員の他一般学生大歓迎

③茶道同好会→原則:各月第3水曜日開催

HP:→<http://hatoh.net>

お問い合わせ…045-333-4426 金田 保男

平成28年度

## 卒業研究履修ガイダンス 開催のお知らせ

【対象者】全科履修生(平成28年度卒業研究履修希望者<sup>※</sup>)

<sup>※</sup>履修申請条件…2年以上在学し60単位以上修得  
 詳細は事務室窓口配布の卒業研究履修の手引をご覧ください

【日時】平成27年7月4日(土) 13:15～14:45

【場所】第8講義室

【内容】卒業研究に関する教員説明

★古岡 一男 教授

◆事務的説明

◆質疑応答 など



希望者は事務室窓口  
 または電話でお申し込みください

TEL.045-710-1910

※昨年度の卒研ガイダンス

## ◆学習センターからのお知らせ

### ◆27年度第2学期学生募集（詳細は募集要項を熟読すること。）

<学部・修士選科・修士科目>

募集要項配付	27年 6月15日(月)～27年9月20日(日)
出願受付(第1回)	27年 6月15日(月)～27年8月31日(月)
出願受付(第2回)	27年 9月 1日(火)～27年9月20日(日)
授業開始	27年10月 1日(木)

### ◆28年度第1学期学生募集（日程は予定であり募集要項で確認すること）

<修士全科・博士全科>

募集要項配付	27年 6月15日(月)～27年8月31日(月)
出願受付	27年 8月15日(土)～27年8月31日(月)
第1次選考(筆記)	27年10月 4日(日)
第1次選考合否通知	27年10月30日(金)
第2次選考(面接試問)	
<修士全科>	27年11月21日(土)又は22日(日)
<博士全科>	27年11月15日(日)
第2次選考合否通知	27年12月11日(金)
入 学	28年 4月 1日(金)

### ◆通信指導の提出期間等（詳細は「学生生活の栞」を熟読すること。）

《郵送提出》

27年5月25日(月)～6月8日(月)必着

《Web提出：キャンパスネットワークHPの「Web通信指導」アイコンをクリック》

27年5月18日(月)午前10時～6月8日(月)午後5時まで

<留意事項>

- ・未提出及び期限までに到着しなかった場合は単位認定試験の受験ができないこと。
- ・通信指導の問題及び自習型問題は採点後の返却がないため、郵送前に通信指導の問題及び自分の解答のコピーと、切り取った自習型問題を各自保管すること。
- ・万が一、Web通信指導と郵送の両方で提出した場合、Web通信指導による解答が採用され、郵送による解答は無効になること。
- ・自習型問題の解答・解説と択一式科目（併用式科目の択一部分）の添削結果が7月3日(金)までに（それぞれ別々に本部から送付）、また、記述式科目（併用式科目の記述部分）の添削結果が7月17日(金)までに届かない場合は本部（043-276-5111）へ問い合わせること。

<提出状況の確認方法>

- ・郵送の場合は、6月13日(土)頃までに、システムWAKABAの「履修成績照会」画面の通信指導欄に表示される「受理」の確認。
- ・Web通信指導の場合は、TOPページの画面に提出（送信）後ただちに提出科目名の横に表示される「提出（送信）済み」の確認。

### ◆単位認定試験期間（詳細は「学生生活の栞」を熟読すること。）

《学部》27年7月26日(日)～8月2日(日)(27日(月)と31日(金)を除く)

《大学院》27年7月24日(金)～25日(土)

<留意事項>7月16日(木)までに受験票が未着の場合は本部（同）へ問い合わせること。

お問い合わせ：放送大学神奈川学習センター

電話045(710)1910（月曜日・祝日等を除く、9時10分～17時40分）